

問 余っている土地が少しあるのでシラカンバを養苗したいと思っています。この近くに生育しているシラカンバが現在（8月末）結実していますが採種時期はいつごろが良いでしょうか。また播種の時期や床作りなど養苗について特に注意しなければならないことがありましたら教えてください。

（由仁 N生）

答 シラカンバは近郊の山々にごくふつうに見られますが、これらは自然に種子が飛んできたものが発芽して大きくなったものです。家の庭や山に植林したものもみられますがその数は多くありません。そのためにシラカンバの養苗についてはトドマツやカラマツほどはっきりとした基準はありません。そこでここでは今までに公表されている文献と現場で試験的にシラカンバを養苗してきた経験にもとづいて質問に答えたいと思います。

まず、種子の問題です。シラカンバは10年生前後から結実をはじめます。春に受粉した雌花穂は6月になると下垂して果穂になります。尾状の果穂は成熟しだすと緑色から褐色へと変わり、空知地方では9月の下旬から風によって飛びはじめます。質問の8月末はちょうど飛散の直前にあたりますので発芽能力は十分にそなわっています。すぐに果穂のまま採取することをすすめます。1個の果穂にはおおよそ600粒の種子が入っています。採取した果穂を手でもみほぐすと簡単に翼のついた種子（正確には翼果）と果鱗とがバラバラになります。種子の精選はこの翼の部分と果鱗を取り除くために、さらに軽くもみほぐしてふるいにかけてみます。しかし、この作業はかなり面倒なので果鱗や翼を含めたまま播種しても実用上さしつかえありません。

播種の時期は発芽能力や発芽揃いを考えると採ってすぐにまきつける「取り播き」がもっとも良いでしょう。この時期にどうしても播種床が準備できないなど「取り播き」が不可能な場合は翌春（雪解け～5月上旬）でもかまいません。この場合には種子を冷蔵庫などに入れて低温貯蔵しておき、播種の約1カ月前から雪中埋蔵をするのが良いでしょう。発芽はどちらの場合でも6月初めからはじまります。発芽当初の苗は極めて小さく、すぐに消失するものが多いので、発芽当年の秋に苗長が10 cm以上に伸長するものは播種粒数の1%程度とみておくのが安全です。したがって播種量は1㎡に100本を期待するならば10,000粒、果穂にして約15個が必要です。なおシラカンバの種子は軽く飛びやすいので播種当日は風のない日を選び、種子に細土をまぜてまくのが良いでしょう。

播種床は種子の流亡をふせぐためにもできるだけ平坦な上床にします。覆土は種子が風で飛ばない程度の薄さにして、すぐに敷ワラをほどこします。発芽前後に乾燥が続く時には灌水を続けます。発芽が揃い乾燥害のおそれもなくなれば敷ワラを除去します。

発芽翌年の床替は5月上旬までに1㎡あたり25～36本程度が適当です。秋には50 cm以上に伸長し、翌春には山出しができます。施肥や除草、病虫害防除などの苗畑管理はカラマツの養苗と同じで良いでしょう。

（造林科 浅井達弘）